

# 「かたつむり」の中の ひとり ひとりの 子どもたち

赤羽美代子



R園の、保育場面の様子を、ちょこりと書き留めた、「かたつむり」(家庭に出すお便り)の中から、ひとり、ひとりの、子どもたちの様子を、記してみましよう。

きなり、ピチャリと叩かれます(C夫は、表現がへたな子で、お気に入りを見ると、挨拶代わりに、突然、叩きます)。

A子はC夫に脅えて、落ち着きません。或る朝、A子は長髪をバサリと切る。自慢

五月号 三歳児 女児 A子について  
ぶっくりとしたA子は、三歳児C夫に、い

の広がるスカートが、短パン姿に変わる。黒のTシャツ姿もりりしく、颯爽と園の玄関に

立ちました。私は「A子の御両親は、三人めの女兒を男装の麗人として、遅しく育てるのかな？」（この発想は、『ベルバラ』の影響でしょうか？）と、思いきや。A子が、研究したスタイルとの事。A子は「今日、C夫は、私をぶたなかったよ。成功！ 成功！」

オスカル様、ステーカー。アンドレより

#### 六月号 四歳児 女兒 B子について

B子の母が出産のため、入院をしました。

ひとり娘のB子は、毎日が淋しいのです。

ある日のB子、「私は、赤ちゃんが生まれそうなの。今からママの病院に入院します」と半ベソで、訴えます。教師は「ハイ、急い

で、入院の仕度を致しましょう」と、B子の身体を、ぎゅっと抱きしめました。

六月号 五歳児 男児 Y介・M志について  
年長組の避難訓練の日です。

教師の「地震ですよ！」の声に、子どもたちは、礼拝堂の長椅子の下に潜ります。

M志は、ことばの出が遅い子です。「地震！」の合図に、キョロ、キョロと不安です。

教師が、M志に手を貸す前に、四、五名の友だちが、バラバラとM志めがけて駆け寄り、小さな手、手のひらで、M志の背中を押し、引っぱり、長椅子の下に潜り込みます

——中略——。

M志は、友だちとの遊びはにが手ですが、今、皆の下敷きになり、頬がよじれても、ニコニコ顔で、皆に守られています。

Y介は優しく、立派な子です。M志が皆と避難をした姿を確かめると、急ぎ、他の椅子の下に入り、M志を見守ります。

(雪山讃歌の曲で唄います)

Y介は、日頃、M志の遠く、近くに有り、優しい遊び手、導き手となり、M志に尊敬されています。園児も、教師も感動する心が、「地震」の様に揺れるのです。

七月号 五歳児 男児 G太について

時どき、子どもたちは、アーク広場を散歩します。広場から、教会の塔の十字架が、ビルとビルの間から見えます。「十字架が見える!」「十字架だよ!」と、大喜びです。

突然、G太が「先生、イエス様って、すごい人気があるんだねー」と感動の声をほり上げ、十字架を見つめています。

子どもたち、教師も、ビルの中の十字架を見上げると、いつも歌が出てくるのです。

♪煉瓦の 幼稚園の 十字架の塔を  
アークの広場で 見つけた散歩♪

十一月号 四歳児 男児 T雄について

H子は、クスクスと笑い「アーメン、ソーメン、ヒヤソーメン」と、お祈りをしました。W先生は「イエス様が、二千年も前の、昔に教えて下さった。おことはです。アーメンだけでいいのよ」と、皆に話されました。

やがて、T雄が駆けてきて「先生、イエス様が二千年も前の昔に、言ったばかりなのに、Hは、もう忘れて、アーメン、ソーメン、ヒヤソーメンと言いましたよ」私「アラー」T雄「たった、二千年前の、昔なのに、もう、忘れるなんて、オカシーヨーネー」と、両目はパッチリ、口をとがらし、首を曲げて、力強く、私に訴えます。私も、

ト雄と一緒に、首が曲がってしまいました。

十二月号 五歳児 男児 H彦について

H彦は「ママお願い! ダビデの村に、赤ちゃんイエス様を、おがみに行こうよ」と。

このH彦の希望が、全園児の「願い」にもなりました。サンタさんに「願い」を聞いて欲しいと、歌をつくりました。

○2番 (1番は略します)

♪サンタのおじいさん私の願い <sup>ワタシ</sup> ダビデの村の馬小屋で <sup>ヒツシ</sup> メエーメエー羊と優しい天使と、赤ちゃんイエス様 おがみたい♪

クリスマスの日、サンタさんは、子どもたちの、可愛い「願い」の歌を聞き、大きく頷き、大きな手帳に、書き込んでくれました。

十二月号 五歳児 女児 O子について

O子は、サンタさんの櫓で、ダビデの村に行く決心をしました。イブには、睡魔と戦いながら、サンタさんを待ちました。が……、いつしか、夢心地となりました。

翌朝のO子は、レイン・コートを着ていました。「先生、私はダビデの村に、行ったらしいよ。レイン・コートを着ていたのよ」

O子が画いた絵には、レイン・コートを着たお友だち、先生方、家族が櫓に乗り、ニコニコ笑って、空を飛んでいました。

☆O子のママ、皆にも、レイン・コートを着せて下さって、どうもありがとうございます。

子どもたちが「サンタさんと歌いたい」と、精一杯に唄う「詩」を紹介します。

(結んで開いての曲で、唄って下さい)

「かたつむり」 リュー・ユイ

♪かたつむり おかしいな 目玉が一つの

上にある おかしくない おかしくない

目玉が上なら よく見える♪

♪かたつむり おかしいな おうちをしょつ

て あるいてる おかしくない おかしく

ない 敵にあつたら もぐりこむ♪

♪かたつむり おかしいな おながが そつ

くり足になる おかしくない おかしくな

い 足が大きけりゃ あんぜんだ♪

♪かたつむり のろいなあ うごかないのと

おんなじだ のろくつたつて のろくつた

て 止まらなけりゃ いいんだよ♪

十二月の園児は、お互いの違いを認め合  
い、共に生かし合いつつ、止まらずに、成長  
を続ける子どもたちとも言えましょう。

(霊南坂幼稚園)